

旧庁舎跡地活用に関する説明会要旨

平成 23 年 3 月 14 日（月） 18:30 神保町区民館

区説明者：島崎部長・松本参事・清古部長・小川課長・古田副参事

出席者 27 名

質疑応答等

【説明会の開催について】

○なぜ、この震災の中、説明会を実施したのか？急いでやることではないのではないか？

→・このような状況での実施については、全庁的に十分議論した。区民生活に関りの深い事業については、混乱を避けつつ、実施できるものは実施することとした。区民からの意見をいただく貴重な機会として実施した。

○電話で2回開催の問合せを行ったが、実施の回答を得たのは、昼頃だった。そのような状況でなぜ実施なのか？

→・開催の可否の議論に時間を要した。再度説明会の機会を設ける。今回の説明をもって無理に進めるものではない。

【九段坂病院について】

○KKRの病院には赤字の所が多いと聞いている。また、九段坂病院は、全国から患者が集まる特殊医療に特化した病院ではないのか？そうした病院で区民の優先枠はどれくらい取れるのか？50床は確保して欲しい。

→・KKRでは、北海道から九州まで60くらい病院がある。そのうち、赤字を出している病院もあれば、廃止した病院もあり、共済組合として経営改善を進めているようだ。

・一方、九段坂病院は収支は良好であり、整形外科や心療内科を得意分野としている。以前は産科や小児科もあった。今後は区民向けの医療の取組みを進めていくことになるが、区民優先の方法については検討が必要。区民枠に50床つくるということになると、一般向けが足りなくなって、医療法との絡みもあるので難しい。

○区では何床必要なのか？

→・自宅で預かるのが難しくなった高齢者を対象とした、お医者さんのバックアップ機能や救急対応として5床から10床。貴重な土地に移ってきてもらうために介護機能を補完してくれる機能を期待している。

→・救急医療、災害医療等の面から区民への医療をバックアップすることを考えている。

○共済組合の病院なら、虎の門に立派な病院があるのに、なぜ九段にもつくるのか？区の庁舎も国の土地にあり、国を便利にするためにやっているように見える。区庁舎を借地で建てて、なぜ、「本丸」の区の土地を国に貸すのか？

区に未利用地がたくさんある中で、区が建物をつくって他の医療機関とタイアップすることも考えられるのではないか？

- ・全国的に病院経営は難しい。自治体の病院でも難しい。そうした中であっても病院経営を続けたいというのが九段坂の意向だ。
- ・病院の建替にあたっては、現地建替と移転建替の2つのやり方があるが、現地で建替えると仮病院が必要となり、2回移転しなければならないことになる。その中で移転建替を選択したということだと思ふ。
- ・区庁舎の建替にも同じことがいえ、国の庁舎の中に入ることによって、経費的に安く入れる方法を取ったということだ。
- ・サポートセンターの整備場所として、旧庁舎ありきではない。センターの候補地として、旧庁舎跡地、小川広場、旧九段中、といくつかの大規模用地があり、比較検討した結果、旧庁舎跡地が一番相応しいと判断した。
- ・医療機関を外から持ってくるというのも一つのやり方だとは思ふが、都の保健医療計画で、病院のベッド数は医療圏の中で制限されている。千代田を含む5区からなる二次医療圏では基準数の2倍のベッド数がある。旧庁舎跡地に外から新規の病院を持ってくるのは難しい。現段階では、九段坂との交渉が最も効果的と考えている。

○よその区でこういうことをやっている区はあるのか？

- ・高齢者総合サポートセンターは千代田区がオリジナルで考えた機能だ。他の区にはない。
- ・病院を誘致している区はある。台東区は、医療圏としては病床は足りているが、区に病院が少なかった。都立病院の廃止を受けて区として病院をつくったり、学校跡地に病院を誘致した経緯がある。
- ・区役所が50年、60年先に旧庁舎跡地に移る可能性はわからない。旧庁舎跡地の活用策を考えるにあたっては、直接区民がサービスを受けられる機能を考えた。高齢者の生活を支える機能、つまり、高齢者が相談を受けたり、サービスを受けられたりする機能を考えた。

○病院のネーミングはどうなるのか？「KKROO病院」になるのか、「千代田区民病院」になるのか、それとも区民から募集するのか？

- ・具体的な名前の協議はやっていない。ただ、九段坂病院としては「九段坂病院」の名前でずっときているし、場所もずっと九段でやってきたという経緯がある。

○それは打診してみた方がいい。「千代田区民病院」とか。

○九段坂病院の212床について内容は把握しているのか？

- ・メインは整形外科。

○九段坂は頸椎腰椎の専門病院であって、総合病院ではない。患者の7割は整形外科であり、心療内科については待っている人が多い。そうした病院で、こういうことをやっていける力はあるのか？

- ・現状はそうだ。しかし、区内に医療機関がたくさんあるが、区内の在宅療

養者に必要な医療が十分には行きわたっていない現状がある。やってないからできないという理解だとずっとできない。千代田でこういう事をやってくれる所がないと、ずっと現状は改善しない。研修も大事だし、外から人材をつれてくることも大事になる。

○産科、小児科について、系列病院の反応はどうか？

→・産科については虎の門病院、小児科については東京医科歯科大学と連携を進めていると聞いている。

【計画全般について】

○アンケートを見ると、医療、文化、公園とかが多い。隣のビルに区分所有でホールを持っているが、文化とか、健常者向けのものがあるのもいい。雨が降ってもいいようなインドアの全天候型の施設もいい。医療と健康で二段構でやれば、区民は喜ぶ。なるべく公金を使わないように、スケールメリットを生かし、企業等の誘致をしたらどうか？牛が淵には江戸時代には道があった。観光も頭に入れて、大所高所で50年100年を見据えた視点で進めてもらいたい。

→・付帯して多くの人が使える施設として、医療との関連でフィットネス、外から誰でも使えるレストランなど、議会からお話をいただいている。これからあわせて検討していく。

○この地域の周辺にはプールがない。水中ウォーキングができる、健常者が使えるような施設をつくってもらえないか？

→・フィットネスをつくっていく中でメニューに加え、検討させていただく。

○サポートセンターの5つの機能の中で、区にどれがあって、どれがないのか？

→・相談機能はあるが、夜間を充実する。

・訪問診療は利用者の6割が区外の診療所を利用している実態があり、そこを補完する機能を果たしていく。

・訪問看護は4割が区外の事業者を利用しており、そこを補完する機能を果たしていく。

・訪問リハビリ、通所リハビリは区内に全くない。

・高齢者の活動拠点は区内にあるが、さらに拡充していく。

・人材育成機能は、区や社会福祉協議会が行っているが拡充する。

・多世代交流機能は、区役所1階の区民ホールのようなものを想定しており、一般の人が使えるようにしていく。

○計画の内容はよいが、なぜ九段坂病院でなければならないのか？あそこがいと誰が判断したのか？老健なども持っていない。

→・区が考えているのはあくまでサポートセンター。サポートセンターを使って高齢者の生活を支えていくのが主目的。そこに医療との連携の機能が必要となって、そのベースのもとに、九段坂病院から旧庁舎跡地に移転した

いとの要請があった。うまく連携が取れないかということで協議を進めて、仮基本合意にまで至った。最初から九段坂病院ありきではない。

○サポートセンター構想はいつからか？

→・検討は平成16年から。旧庁舎跡地という場所については、区長が22年6月に表明した。

○旧庁舎委員会の中では、1年半前からという話もあった。どうなのか？

→・サポートセンターは16年から検討をはじめ、三候補地の比較検討などを進めてきた。九段坂病院が話を区に持ってきたのは、平成19年の5月くらいから、区役所の移転の前後あたりから。

○区民は知らなかった。議論がオープンになっていない。

→・KKRとしてもオーソライズされた話ではなかった。院長からの話だった。オープンに出来るものとはなっていなかった。

○サポートセンターはあの場所でなくてもいい。旧庁舎跡地は麹町区と神田区が合併した時に、ちょうど両者の中間だからと区役所を置いた象徴的な場所。サポートセンターを前から考えていたと言うのなら、なぜ、あそこが空いてから、検討を始めるのか？なぜ、それまでやってこなかったのか？老健施設やリハビリ施設などもっと相応しいものがあるのではないか？平成16年からの結論がこれなのか？

→・老健は千代田にない。そういう施設はあった方がいい。ただ、そうしたことを考慮しても、サポートセンターが一番必要というのが区の認識。リハビリ施設でもあるし、24時間サービスで高齢者の生活を支える施設として優先性をもって整備していく。
・平成16年からの経緯でいうと、三候補地の中で検討を行ったり、いろいろな観点から検討を行ったりして、その中で最も相応しかったのが旧庁舎跡地ということになる。去年の6月に区長が表明したが、それ以前から検討はしてきた経緯がある。最初から旧庁舎跡地ということではない。

○プロセスを明らかにしていくのが大事なのではないか？なぜ、小川広場や九段中ではダメなのか、検討のプロセスをオープンにしていくのが、これからの地方自治ではないのか？

→・従前から検討経過はオープンにしてきた。

○旧庁舎委員会を1回目から傍聴している人から聞いたが、1回目から九段坂の話しか出てこないと聞いた？

→・初めは議員の方から旧庁舎跡地の用途についてアイデアを出していただいて、それを委員会の中でたたいていったという経緯がある。その中で、用途をだんだん絞り込んでいって、こうした機能になったという経緯がある。執行機関としても並行して検討していった。

○区議会で九段坂病院の話が出たのは何時からか？

→・昨年3月25日から議会で議論し、4月27日に外部からの提案を説明した。その中で、まとまった施設としての要望が九段坂病院からあったと報告した。

【意見】

○高齢化が千代田区でも今後ますます問題になってくる。高齢化が優先課題だと思う。基本方針としては今の区の説明で結構だ。医療内容は刻々と進化している。技術だけでなく、対象範囲も広がっている。それに対応できる方向性を指向すべきだ。全体としてはいい方向だと思う。

○高齢者サポートセンターが立ち上がった後、その施設は今後我々若い世代が支えていくことになるが、前向きに捉えていきたい。通信病院で産科がなくなって、警察病院がなくなった。おとといのような大震災が起こったとき、どうするか。九段坂病院の機能を拡充して、サポートセンターを補完する機能を持っていくのは、象徴的な場所の活用策として結構なことだと思う。

【部長挨拶】

病院名やプールの発想は参考となる。たくさんの意見を反映していきたい。また、立ち上がったあかつきには、効果等を検証していく。